



—発行—

南畑地区社会福祉協議会

発行人 木村久志

編集 広報部会

発行日 令和6年10月10日



南畑地区社会福祉協議会

会長 木村 久志

今年、パリオリンピックの年。振り返れば、この悪文を書き始めたのは、前回の東京オリンピックの年だったと思います。

私が小学校一年生だった昭和三十九年の東京オリンピックを思い出し、当時の様子をだらだらと書かせていただきました。

あれから60年、まだまだ若いと思いつつも、前期高齢者の宿命でしょうか、足腰が痛み、人の名前が思い出せず、最近では自分の部屋に何を取りに来たのか忘れるようになりました。

さて、今年のパリオリンピックは画期的な開会式でした。各国の選手がセーナ川を船で入場行進、聖火台が気球で空に舞うとは想像もしませんでした。そして、色々なことがあったとは言え、日本選手の活躍には、感動と勇気をいただきました。

さて、今年のパリオリンピックの中では、今の国際社会の中では肩身が狭いと感ずると同時に、哲学というドイツ語を必須とした自分に矛盾を感じています。パリオリンピックでは、セーナ川の水質汚染が話題となりました。合流式という下水道方式に原因があるようですが、パリ市長が自らセーナ川に飛び込み、安全だとアピールした光景が思い出されます。

今では半分後悔していますが、私が大学で専攻したのは哲学。自分が見ているもの、感じているものを相手に伝えるには、言葉や表情、態度が主な手段ですが、別々に生まれ育ち、たまたま出会っている目の前の人に、どこまで自分の思うところが伝わっているのだろうかというつまらない疑問からでした。

そんなことから、言い訳になります。言葉が違えば、外国には全く興味が無く、日本語の奥深さを盾に生き

ている自分は、今の国際社会の中では肩身が狭いと感ずると同時に、哲学というドイツ語を必須とした自分に矛盾を感じています。パリオリンピックでは、セーナ川の水質汚染が話題となりました。合流式という下水道方式に原因があるようですが、パリ市長が自らセーナ川に飛び込み、安全だとアピールした光景が思い出されます。

そう言えば、亡くなった叔父が、私が小さい頃は、新河岸川は、とてもきれいで、南畑橋の近くからパンツ一つで飛び込み、志木市役所の近くまで泳いで、帰りはアイスキャンデーを食べながら土手を歩いて帰ってきたもんだという話を思い出しました。

人々の営みと自然は、南畑にとって究極の課題なのかもしれません。

来年は、是非とも南畑地域の素晴らしい環境が保たれるよう環境浄化運動を行っていきたく思いますので、皆さんのご参加をお願いいたします。

地区社協総会

予算総額(収入・支出同額) 1,665,000円

主な事業計画

- ①環境浄化運動
- ②敬老事業 敬老会を実施
- ③独自会費募集
- ④健康講座実施
- ⑤広報なんばた発行

環境浄化運動

環境総合部会長

桶田 修平

6/26

今年、中学生71人、子ども会育成会313人を含め総勢903人の参加者の申し込みをいただいておりますが、雨天のため中止となりました。

来年は、是非とも南畑地域の素晴らしい環境が保たれるよう環境浄化運動を行っていきたく思いますので、皆さんのご参加をお願いいたします。

